

【議事概要】

令和８年度第３回利根地域医療構想調整会議（書面開催）について

１ 議事「病床数適正化緊急支援事業（第２回）申請について」

（１）配布資料

別添資料のとおり

（２）協議結果

意見なし ２８名 意見あり３名（委員数：３１名 回答数：３１名）

【意見】

- ・ 第２回申請における各医療機関が示した削減病床数の希望については特に意見はありません。
削減された病床数について、一般急性期への再配分について具体的に検討される予定はあるのでしょうか？
利根地域保健医療圏において前回会議においても、急性期病床は余剰があり回復期病床は不足している、また今後の人口動態からも同様の内容でしたが、あくまでも統計上の数字的なものであり実際は満床により受け入れ困難が生じる事態が発生しています。当院においても病床稼働率が月平均９５％を越え人力的な余力はあるものの満床により救急患者の受入れを制限せざるを得ない状況が頻発しております。一概に削減だけでなく個々の状況を鑑み急性期病床含め適正配分について強く検討していただきたいと考えます。
- ・ 病床数適正化緊急支援事業の病床削減の２病院の件については異論ございません。
現在、当院では病床利用率が１００％を慢性的に超える状態が続いております。
利根医療圏の病床削減分を、当院に割り当て可能かご検討いただけましたら幸いです。

（上記２件に対する回答）

削減された病床について直ちに公募を行い病床整備を行うことはできませんが、今後、利根圏域の病床が基準病床数や必要病床数に対して不足が生じていることが確認されれば、新たな病床公募や公募する病床機能について検討してまいります。

- ・ 今回の病床数適正化緊急支援事業の申請については、済生会加須病院の25床は休床病床の削減であり、栗原眼科病院の15床についても急性期病床であることを確認しましたので、各医療機関の病床利用状況等を踏まえ、了承いたします。

一方、利根医療圏の2040年必要病床数は4,469床とされており、2025年必要病床数4,630床と比較しても、総病床数としての減少は161床にとどまっています。また、2040年に向けては、急性期病床が減少する一方、包括期病床が増加するなど、総病床数の削減そのものよりも、必要な病床機能への再編が重要になると考えます。

今回の申請40床を含めると、病床数適正化緊急支援事業による利根医療圏の削減申請は累計314床となり、そのうち93床は稼働病床です。個々の申請についてはそれぞれ妥当性を判断するとしても、病床削減を個別に積み重ねた結果、将来必要となる医療機能まで減少することのないよう、2040年に必要とされる急性期・包括期・慢性期等の機能別病床数との整合性を、圏域全体として継続的に検証することが重要と考えます。

今後の地域医療構想調整会議においては、病床数適正化支援事業による累積の削減病床数、稼働病床・休床病床の内訳、削減後の機能別病床数を、2040年必要病床数と比較できる形で継続的に示していただくことを希望します。

(回答)

御意見として承らせていただきます。